

自然文化誌研究会冒険探険部の20年史

- 1975・6 <自然文化誌研究会>創立
- 1975-1981 関東(奥多摩・山梨県上野原町等)近畿・中部・北陸および東北地方の広い範囲にわたって、雑穀類(キビ・アワ等)の栽培と調理法についてのフィールド調査
- 1981・7 北海道日高地方(白老・平取・二風谷)において北方農耕文化第1次調査  
 ・9 同 第2次調査
- 1982・3 同 第3次調査  
 ・9-10 同 第4次調査・渡島半島(厚沢部・熊石・大成・今金・長万部等)
- 1983・2 「野外学習Ⅰ-農場の食物作用」発行(編集協力)
- 1984・4 大学の農場でキビ・大豆の栽培を始める  
 年間を通じて餅つき・味噌づくりなどを行ない、農耕文化基本複合プログラムを開発・実践する
- ・5 雲取山登山
- ・11 「野外学習Ⅱ-農場の収穫物を利用した食品加工」発行(編集)
- ・11 第1回野外教育セミナー「都市における農業教育」を開催[講師:木俣美樹男(探険部)・明峰哲夫(やば耕作団)]
- 1985・2 第2回野外教育セミナー「もの作り学習」開催[講師:小島靖子教諭(八王子養護学校)]
- ・5 第3回野外教育セミナー「農業教育の必要性」開催[講師:末松教諭(都立園芸高)]
- ・6 冒険探険部と合併にともない自然文化誌研究会冒険探険部へ改組  
 プール長屋を放棄
- 1981・2 <冒険探険部>創立
- ・4 活動開始
- ・5 合宿:野外実習・北八ヶ岳登山
- ・8 山梨県南部奥地・折門部落(廃村)にて合宿
- ・9-10 ネパール・アンナプルナ登頂隊に部員派遣
- 1982・4 バングラディッシュでの農村開発活動に部員派遣
- ・10 ヨーロッパ・ドイツ巡見に部員派遣
- ・10 ハングライダー班が全国体会で活躍
- ・10 富士氷穴ケービング班活躍

- 1983・9-10 部員が自転車でオーストラリア大陸横断
- ・10 トルコ東部アララト山塊調査に部員派遣
- 1984・2-3 第1次中国遠征（部員・一般参加者計18名）
- ・8 中国引き揚げ者子弟日本語学校（江戸川区）夏の野営会に部員4名参加
- ・10 韓国遠征隊第1次予備調査
- ・10 中国国慶節記念行事に部員参加
- 1985・2-4 部員バキスタン・イランを自転車で縦断・調査
- ・3-4 第2次中国遠征（部員・一般参加者計6名）
- ・2 自然文化誌研究会との合同部会
- ・6 自然文化誌研究会との合併
  
- 1985・6 <自然文化誌研究会冒険探険部>創立
- ・6 「インドネシア・プロジェクト」発足
- 「国際留学生のつどい」主催
- ・7 第1回総会・研修会（奥多摩「無三庵」）、以後年一回開催
- ・9-10 インドネシア学術探険（インドネシア・プロジェクト）第1回予備踏査隊派遣
- ・10-1986・3
- フィリピン第1次調査 会員派遣
- 1986・2-3 韓国調査 会員派遣
- ・3 インドネシア・プロジェクト第一次隊派遣
- ・3-4 第3次中国遠征（会員・一般参加者計11名）
- ・5 マラソン報告会「アジアは今」第1～7回開催（インドネシア・韓国・中国・フィリピン）
- ・6 「野外学習Ⅲ」発行
- 第1回「野外教育シンポジウム」（東京）を準備・協賛
- ・7 第4回野外教育セミナー「野外教育について」開催〔講師：石岡信（日本野外教育研究会）〕
- 1987・3-4 第4次中国遠征（会員・一般参加者計19名）
- ・6 第2回「野外教育シンポジウム」（大阪）協賛
- ・8 青年海外協力隊員として会員がガーナへ渡航
- ・8 イギリスの野外活動学校（OBS）に会員参加
- ・8 「学術調査報告Ⅰ」発行
- 1988・3-4 第5回中国遠征（会員・一般参加者計12名）
- ・5 「五日市プロジェクト」の一環として山小屋の建設開始

- ・5 「父親のためのアウトドア＝スクール」（くもん子ども研究所・森林文化協会共催）に技術協力
- ・6 第3回「野外教育シンポジウム」（名古屋）協賛
- ・8 南アルプス北岳登山
- ・8 学芸大学公開講座「子供のための自然教室」（F S I 冒険学校）開催
- ・11 「F S I 冒険学校」について環境教育研究会において報告
- ・12 「F S I 冒険学校」について「清里フォーラム」において報告
- ・12 第5回野外教育セミナー開催  
「からだ・ことば・イメージの授業」〔講師：鳥山敏子（中野区立桃園2小教諭）〕  
「山村留学と子供の成長」〔講師：青木孝安（働育てる会理事長）〕
- ・12 山小屋完成
- ・12 キッド部会発足
- 1989・3 臨時総会
- ・4 ジュニア部会による「定期山行」始まる（第1回：大菩薩峠）
- ・5 第6回野外教育セミナー開催  
「東南アジアの環境問題と日本とのかかわり」〔講師：村井吉敬（上智大教授）〕  
「環境教育の国際的動向」〔講師：橋本詔子（環境庁環境教育専門官）〕
- ・6 第4回「野外教育シンポジウム」（信州）協賛、冒険学校について報告
- ・8 学芸大学公開講座第2期「子供のための冒険学校」開催
- ・8 北アルプス槍ヶ岳登山
- ・11-12 連続講演会「アジアを考える」開催  
第1回「フィリピンわが祖国」  
長倉洋海（フォトジャーナリスト）  
第2回「漂海民」  
門田修（フォトジャーナリスト）  
第3回「アジアの売買春を考える」  
アジアの売買春を考える男たちの会  
第4回「ミャンマーカチンシャン州潜入報告」  
吉田敏浩（アジアプレス）  
第5回「韓国の定期市」  
松山勝彦（学芸大院生）
- 1990・2 第7回総会
- ・3 創立15周年記念全国探険部シンポジウム「風と人と」開催

- ・5 日本環境教育学会創立準備に協力
- ・5 第5回「野外教育シンポジウム」(東京)協賛
- ・5 North Carolina Outward Bound School に参加
- ・8 南・北アルプス登山研修
- ・8 第3期冒険学校の開催
- ・9-10 部員バりに渡航
- ・9-10 部員ボルネオに渡航・調査・登山
- ・12-1991・1  
部員インドネシア・アル―諸島に渡航・調査
- 1991・11-1992・2  
連続講演会「アジアを考えるⅡ」開催
  - 第1回「開発教育とは」  
寺尾明人(開発教育協議会)
  - 第2回「多民族国家・日本―在日外国人問題の現状と課題」  
阿久澤麻理子・榎井縁(財神奈川県国際交流協会)
  - 第3回「マレーシア―多民族社会の構図」  
谷鋭(東洋大学大学院)
  - 第4回「東南アジアにおける森林伐採問題とわたしたち」  
市井晴也(サラワク・キャンペーン委員会)
  - 第5回シンポジウム「在日韓国・朝鮮人とわたしたち」  
&朝鮮大学校生交流会
- 1993・6-8 中央アジア学術調査隊 JTクロスカルチャア賞を獲得し 中央アジアへ
  - ・8 部員 大学から下関まで徒歩旅行
  - ・9 濟州島調査冒険隊 濟州島へ
- 1994・9 鋤路川カヌー下り

## 【 小菅村における東京学芸大学の活動歴 】

- 1974年 雑穀およびそ菜の在来品種調査を開始し、アワ・キビ・ヒエ・モロコシ・シコクビエ・ハトムギの種子を保存する。
- 1996年 小菅村小学校のすげのご祭りにて学生実習を開始する。
- 1998年 雑穀およびそ菜の在来品種に関する追跡調査を開始する。
- 2002年 NPO法人自然文化誌研究会の「のびと講座」を小菅村にて初めて開催する。
- 2003年 ミレットコンプレックス開始した。
- 2004年 NPO法人自然文化誌研究会の主たる活動拠点を小菅村に移す。
- 2004年 雑穀栽培講習会を開始した。
- 2005年 文部科学省現代的教育ニース取組支援プログラム  
「持続可能な社会づくりのための環境学習活動～多摩川バイオリージョンにおけるエコミュージアムの展開～」
- 2005年 ミューゼス研究会を村民に呼びかけ、組織した。
- 2005年 ヒエ焼酎の試作
- 2005年 小菅の湯レストランにて雑穀メニューの提供を開始するため、総支配人、調理長はじめ職員に対し、研修を実施した。
- 2005年 雑穀クッキー試作後、商品化
- 2006年 第1回 多摩川流域エコミュージアム・ネットワーク・シンポジウム
- 2006年 エコミュージアム日本村/植物と人々の博物館づくりの構想
- 2006年 植物と人々の博物館準備室を村内（橋立地区）に置く。
- 2006年 小菅村中央公民館にて植物と人々の博物館の整備を開始する。
- 2006年 小菅村と社会連携協定を締結した。
- 2007年 第2回 多摩川流域エコミュージアム・ネットワーク・シンポジウム
- 2007年 植物と人々の博物館特別展示「雑穀展」を開催する。
- 2008年 第3回 多摩川流域エコミュージアム・ネットワーク・シンポジウム
- 2009年 植物と人々の博物館特別展示「インドの雑穀と生活文化」「山村をささえた養蚕」などを開催する。
- 2009年 雑穀発泡酒 Sobibo・ピーボの完成
- 2009年 エコミュージアム研究会第15回全国大会を小菅村にて開催する。
- 2010年 源流まつりにて、雑穀発表酒販売を手伝う。
- 2012年 雑穀研究会シンポジウムを開催(9/1-3)
- 2015年 第36回環境学習セミナーを開催予定(11/14-15)
- この他、学生が学外実習の実施や、卒業論文・修士論文の調査で訪れている。